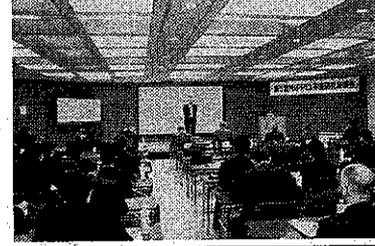


# 全国から14編

NIPPOが  
事例研究発表会

NIPPOは、事例研究発表会の第5回全国大会を23日に東京都中央区のマツタホールで行った。写真、舗装・土木・建築の技術、工法や施工事例などが報告される場で、約130人の社員が出席。全国大会では、昨夏から全国10支店で行われた発表会に出された95

編のうち、特に優れていた10編と、合材・環境・建築・エネルギーの各部門が推薦した4編の14編を紹介し、担当者に参加者が意見交換した。大会で水島和紀社長は「個人が経験したことを会社の財産にして、次の人の世代への水平展開をぜひしてもらいたい」と述べた。担当者による大会当日のプレゼンテーションも踏まえ、最優秀賞には関東建築支店 関東建築工務事務所に所属する脇岡潔氏の「鉄筋コンクリート柱と鉄骨梁の取り合い改善事例」を選んだ。



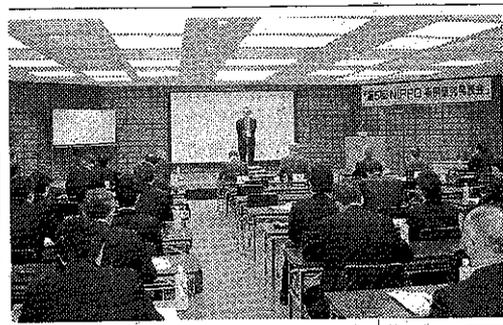
日刊建設工業新聞  
平成24年1月25日掲載

## 技術発表会

### 次の世代に水平展開

NIPPO

NIPPOは23日、東京都中央区のマツタホールで第5回事例研究発表会を開いた。写真、合材、環境、舗装、エネルギーの各部門から推薦された4編の計14編が発表された。全国から約130人が参加した。



最優秀賞には、関東建築支店 関東建築工務事務所の脇岡潔氏による「鉄筋コンクリート柱と鉄骨梁の取り合い改善事例」が選ばれた。水島和紀社長は、「それぞれの業務に携わる一人ひとりが創意工夫や改善改良を実践し、新たに開発した成果を生かしていく必要がある。個人個人が経験したことを会社の財産にし、次の人・次の世代に受け継いでいく水平展開を進めてほしい」とあいさつした。

発表会では、技術や工法、施工や総務部門から東日本大震災の教訓に関する発表もあった。優秀論文賞には、環境事業部工務技術グループの二川昌氏による「油漏洩事故における拡散防止対策工事の事例」、優秀プレゼンテーション賞は関東第二支店茨城統括事業所の尾崎一平太氏による「震災時の初動営業活動と震災対応モデルの提案」が受賞した。

建設通信新聞  
平成24年1月25日掲載